



ヤマハモーターサイクル歴代の名車達

www.legendsofjapanenduro.com

YAMAHA MOTORCYCLE HISTORY シリーズ



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
- 写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のために写真付き切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

SPECIFICATIONS of YAMAHA MOTORCYCLES

YA-1
1955

DISPLACEMENT
123cc

COMPRESSION RATIO
6.0:1

MAX. POWER OUTPUT
5.6ps/5,000rpm

MAX. TORQUE
0.96kg-m/3,300rpm

LENGTH
1,980mm

WIDTH
660mm

HEIGHT
925mm

YDS-1
1959

DISPLACEMENT
246cc

COMPRESSION RATIO
8.0:1

MAX. POWER OUTPUT
20ps/7,500rpm

MAX. TORQUE
1.9kg-m/6,000rpm

LENGTH
1,990mm

WIDTH
615mm

HEIGHT
950mm

DT-1
1968

DISPLACEMENT
246cc

COMPRESSION RATIO
6.8:1

MAX. POWER OUTPUT
18.5ps/6,000rpm

MAX. TORQUE
2.32kg-m/5,000rpm

LENGTH
2,060mm

WIDTH
890mm

HEIGHT
1,130mm

XS-1
1970

DISPLACEMENT
653cc

COMPRESSION RATIO
8.7:1

MAX. POWER OUTPUT
53ps/7,000rpm

MAX. TORQUE
5.5kg-m/6,000rpm

LENGTH
2,175mm

WIDTH
905mm

HEIGHT
1,135mm

SR500
1978

DISPLACEMENT
499cc

COMPRESSION RATIO
8.3:1

MAX. POWER OUTPUT
32ps/6,500rpm

MAX. TORQUE
3.7kg-m/5,500rpm

LENGTH
2,105mm

WIDTH
845mm

HEIGHT
1,155mm

RZ250
1980

DISPLACEMENT
247cc

COMPRESSION RATIO
6.2:1

MAX. POWER OUTPUT
35ps/8,500rpm

MAX. TORQUE
3.0kg-m/8,000rpm

LENGTH
2,080mm

WIDTH
740mm

HEIGHT
1,085mm

FZ750
1985

DISPLACEMENT
749cc

COMPRESSION RATIO
11.2:1

MAX. POWER OUTPUT
77ps/9,500rpm

MAX. TORQUE
7.0kg-m/6,500rpm

LENGTH
2,225mm

WIDTH
755mm

HEIGHT
1,165mm

VMAX1200
1990

DISPLACEMENT
1,197cc

COMPRESSION RATIO
10.5:1

MAX. POWER OUTPUT
97ps/7,000rpm

MAX. TORQUE
11.3kg-m/6,000rpm

LENGTH
2,300mm

WIDTH
785mm

HEIGHT
1,175mm

YZF-R1
1998

DISPLACEMENT
997.8cc

COMPRESSION RATIO
11.8:1

MAX. POWER OUTPUT
150ps/10,000rpm

MAX. TORQUE
11.0kg-m/8,500rpm

LENGTH
2,035mm

WIDTH
695mm

HEIGHT
1,095mm

MT-01
2005

DISPLACEMENT
1,670cc

COMPRESSION RATIO
8.4:1

MAX. POWER OUTPUT
66.3kW(90HP)/4,750rpm

MAX. TORQUE
150.1Nm(15.3kg-m)/3,750rpm

LENGTH
2,185mm

WIDTH
790mm

HEIGHT
1,160mm

www.legends-of-yamaha-enduro.com

ヤマハモーターサイクル歴代の名車達

YAMAHA MOTORCYCLE HISTORY シリーズ

YA-1 1955

ヤマハ発動機の第1号車。黒一色で重厚なデザインがモーターサイクルの常識だった当時、シンプルなフォルムとモダンな栗茶色で登場したYA-1は、「赤トンボ」の愛称で親しまれた。また、1955年7月の第3回富士登山レースで優勝、同年11月の第1回浅間火山全日本オートバイ耐久レースのウルトラライトクラスで上位独占するなど、高機能性もアピール。大卒男子初任給の全国平均が4万7800円という時代に、13万8000円という価格で発売され、高嶺の花でもあった。



YDS-1 1959

YD-1のスポーツ性能をさらに高めたYDS-1は、20馬力のエンジンを鋼管クレードルフレームに搭載し、圧倒的な動力性能を発揮。国産初の5速トランスミッション、エンジン回転計内蔵のコンビネーションメーターなどの装備はスポーツライダーを熱中させ、「日本初のスポーツモデル」と称された。



DT-1 1968

発売と同時に圧倒的な支持を受け、世界的なトレールブームを巻き起こしたDT-1。それまでのオフロードバイクは、オンロードモデルから派生したスクランプラーが中心だったが、DT-1は「道なき道に行く」という言葉をそのまま具現化。当時、国産車最長のストロークを誇ったセリアーニ式フロントフォーク、オートループ、5ポートピストンバルブエンジン、大径ブロックバターンタイヤ、エンジンガードなど、オフロード走行に焦点を絞ったテクノロジーや装備をふんだんに投入し、「トレールバイク」という新しいジャンルを築き上げた。



XS-1 1970

「ベケエス」というニックネームで、多くのファンに親しまれたモデル。創業以来15年にわたって2サイクルエンジン車のみを作り出し、「2ストの」という呼称を冠してきたヤマハが、初めて発売した4サイクルエンジン車だ。「軽量・スリム・コンパクトな大排気量スポーツモデル」という命題を、細身のダブルクレードルフレームにスリムさが身上的OHCパーチカルツインエンジンを搭載することで達成した。



SR500 1978

世界のモーターサイクルの中でも、四半世紀にも及ぶ種なロングセラーをつづけているSR400/500は、1978年春に発売された。ビッグシングルの魅力をオフロードに具現化した4サイクル・エンデューロXT500のノウハウをオンロードに再現したもので、軽量、スリム、コンパクトな車体、独特の強大なトルクとダイナミックな加速感が、いまでも多くのライダーの支持を集めている。



www.legends-yamaha-enduros.com

RZ250 1980

レーサーTZ250をベースに開発された、スーパースポーツモデル。1979年の東京モーターショーで鮮烈なデビューを飾ると、瞬く間に大反響が巻き起こった。水冷2サイクル2気筒エンジンは、リッター当たり140馬力の高出力を発生。これをダブルクレードルフレームに搭載、モノクロスサスペンション、軽量キャストホイールなどと相まって、圧倒的な走行性能を発揮した。今もお人気は衰えず、'80年代を代表する神話的なモデルとなっている。



FZ750 1985

1984年秋のドイツ・ケルンショーで発表され、大反響を巻き起こしたFZ750。世界初の5バルブDOHC並列4気筒を45度前傾させて搭載したレイアウトは、エンジンの出力特性とマシンの操縦安定性向上をあわせて追求した画期的なもの。この設計コンセプトは「ジェネシス」として、FZからFZRへと継承され、いまなお進化をつづけている。



VMAX1200 1990

1985年アメリカ市場にデビューしたVMAX12は、個性的なスタイリングと独特のパワフルな走りや長い間高い人気を博してきた。1990年そうした個性的なクルージングモデルの楽しさを日本にも…と登場したのがこのVMAX1200。水冷V型4気筒1200ccエンジンや個々のパーツが独立した造形美を主張している躍動感あふれるデザインは日本でも根づよいファンを集めている。



YZF-R1 1998

'98年欧州モデルとしてデビュー。リッターマシンの常識を覆すスポーツ性でライダーの話題をさらったスーパースポーツYZF-R1は、常にライダーに最上の走りのエキサイトメントを体感してもらうことをテーマにMotoGPのテクノロジーを投入するなど、バイクそのもののポテンシャルを最高水準まで高めることに挑戦。あらゆる状況で破綻を感じさせない車体剛性、すべての操作が人間の意志にそむかない過渡特性など、R1のR1たる部分を未知の領域で実現させている。



MT-01 2005

1999年のモーターショーで、異彩を放ち注目を集め発表されたコンセプトマシンは新たなテイストを持ったビッグVツインとし大きな反響を巻き起こした。圧倒的な鼓動感とそのトルク。一発一発の爆発が感じられる大型Vツインの加速フィールとコーナー脱出時の力強いトルク感、エンジン特性を生かした軽快なハンドリングなど大地を蹴るような躍動的かつ駆動感溢れる走りや、かつて類のない所有感を高める各部のハイオリティ感の達成を主眼に置き、MT-01は生み出された。

